活躍する卒業生　第４６号　平成 30 年 4 月 3 日(火)

目の前のことに本気で取り組む！

◇　今回は、坂井香昭さん（東京外大言語文化学部スペイン語学科）のレポートです！

こんにちは。私は関高校 OB（平成 25 年卒）　で、東京外国語大学言語文化学部スペイン語学科を卒業した坂井香昭と申します。今回、高校時代の恩師と友人から本稿の執筆のお話をいただいたので、誠に恐縮ではありますが、日々努力している関高生の皆さんを応援する意味で、私もメッセージを送りたいと思います。これまでの“活躍する卒業生シリーズ”と併せて、皆さんのモチベーションになれば幸いです。

～目の前のことに本気で取り組む～

早速ですが、私が本稿で皆さんに伝えたいのは「目の前のことに本気で取り組む」ことの大切さです。「目の前のこと」とはもちろん個人の価値観や状況などによって千差万別ではありますが、ここでは進学校である関高に通う皆さんのより多くに共感されうる「受験勉強」とします（もちろん、部活動でもボランティアでも何でも構いませんが)。

皆さんの中には「〇〇学部に行きたい」、「将来は××がしたい」と具体的な目標をもっている人もいれば、それが見つからないまま日々勉強に追われている人もいると思います。具体的な目標がある人はその目標と現在の自分の間にあるギャップを算出することができますし、それを埋めるためにやるべき事も掴みやすいので（例えば、「××大学の合格者平均点と自分の点数を比較するとセンター試験の〇〇の点数が△点足りず、特に古文が弱いから向こう 2 週間はそこに重点を置いて勉強する！」など)、それをモチベーションに勤しんでいただければ何の問題もないと思いますので、今回私が伝えたい「目の前のことに本気で取り組んでほしい」というメッセージは、”具体的な目標がないまま受験勉強に向き合っている人”に特に読んでいただきたいです。

このメッセージを伝えるために以下に少しばかり私の大学時代の経験を書かせていただきます。

～私の世界を広げたスペイン語～

私は、高校生の時に漠然と「海外の文化や言語を学んでみたい」と思っており、外国語学部系の勉強をしたいと考えていました。海外では英語が最も通用する言語ということで、当初は英語を専攻語にしようと思っていましたが、英語なら高校でもある程度勉強してきたことと、大学に入ってからでも触れる機会はいくらでもあることを考慮し、わざわざ専攻として選択する必要はないだろうと考えました。そして世界史を学ぶ中で、スペイン語がアメリカ大陸の南半分を（ほぼ）網羅できる言語だと知ったことをきっかけに、大学ではスペイン語をやってみようと決意しました。

志望通り、東京外国語大学に進学しスペイン語を学び始め、真面目に勉強はしていたのですが、はじめの 2 年間は思うように成果が出ず、遂には授業にもついていけなくなることまでありました。当時はまだスペイン語を満足に運用できるレベルはなかったのですが、高校の時から留学したいという思いが強かったこともあり、思い切って 3 年生の後期から約 1 年間のスペインへの留学を決意しました。大学の派遣留学の制度などとは一切無関係だったので、住居や現地で通う学校、またどういうカリキュラム

で学んでいくのかなど、つたないスペイン語を使ってスペイン人とメールでコンタクトを取るところからビザの取得まで全て自力で行い長期留学を実現させました。

留学中は様々な壁がありましたが、スペイン語で不自由なくコミュニケーションが取れるようになり、最終的には国際スペイン語検定で B2 というビジネスレベルの資格[i]も取得できました。語学面での成長だけでなく、卒業論文で扱いたいと思えるほどの研究テーマを見つけられたこと、留学から数年たった今でも定期的にビデオ通話をして近況報告をし合うほどの友人と知り合えたこと**（右写真上はスペインの親友、中はアルハンブラ宮殿）**、そして何より、自分と異なる多様な価値観がどの世界にも存在することと、それを当然の如くリスペクトしようとする姿勢を身に付けることができたことなど、一人の人間としても大きく成長できたと感じます。

また留学後も、身に付けた語学力のおかげで様々な経験をすることができました。ここではそのうちの 2 つについて書きたいと思います。1 つは、2016 年に日本で開催されたサッカーの FIFA クラブワールドカップにおいて、海外メディアの対応を中心とした通訳などの仕事の声をかけてもらえたことです。メディアの方々をスペイン語や英語でアテンドし、運営補助をしたのですが、その中で、日本の某有名キャスターとお話ししたり、スペインのクラブであるレアル・マドリードなどの超一流選手と関わったりする機会もありました。

もちろん、こういった世界的なイベントに内部関係者として参加できたことは、私の語学力だけでなく、そのタイミングで大会が日本で開催されたことや、その年の参加クラブの多くがスペイン語圏のチームだったという時の運や、大学を通して仕事の話をいただいたので、一種のコネクションがあったからこそできた経験ではありますが、第一に、スペイン語の運用能力を有していなければ起こり得なかったことを考慮すると、偶然よりも必然的な要素大きかったと言えるかもしれません。

2 つ目は大学時代の卒業旅行として、一人でキューバへ渡航したことです。旅先をキューバにしたのには様々な理由がありますが、近年の世界では、かつて途上国と呼ばれた国も徐々に資本主義の下で急速な経済発展を遂げつつある状況の中で、半世紀以上も社会主義体制を貫いている、という独自性に惹かれたのが大きな理由の一つです。広告が一切存在せず、配給制度が依然として施行され、資本主義の権化とも言えるマクドナルドやスターバックスがないキューバには、まさに今から日本社会へ飛び込んでいこうとする私にとって何か大事なものがあるのではないかと考えたのです。

旅行の詳細は割愛しますが、観光客が訪れないような町の中心から外れたぼろぼろの居酒屋で、現地のキューバ人に言われた言葉の日本語訳だけ引用したいと思います。

他の途上国だったら、君のような日本人がこんな人気のない所にいたら間違いなく危ない目にあうだろう。でもキューバではそんなことはまずないんだ。我々にはお金はないけど、幸せだからね。この感じは日本人には分からないかもしれないね。

私はこれを聞いたときに思わず涙が出てしまいました。私は決して裕福な家庭で育ったわけではありませんが、新自由主義[ii]が支配する日本社会（特に東京）で暮らすうちにこういう感覚が薄れていたことを痛感したのと同時に、就職する前に生きる上で大切なことを再認識できて心底よかったと思いました。

少し話がそれましたが、キューバでこういった経験ができたのも、私自身が公用語であるスペイン語を使えたからに他なりません。キューバでは英語があまり通じず、一般に治安が悪いと言われる上に、まだ行ったことがないという条件の下で、中南米の国に一人で行くという決断に最後に背中を押してくれたのがスペイン語でした。このように苦しくてもあきらめず勉強し続けたスペイン語が私の世界を広げてくれましたし、大事なことを学ぶきっかけを与えてくれました。これからもきっとこの言語を通して様々な経験や出会いが待っていると思います。**（上写真、キューバにて）**

～おわりに～

繰り返しになってしまい恐縮ですが、私が本稿を通して皆さんに伝えたかったのは、「目の前のことに本気で取り組む」ことの大切さです。目標があることに越したことはありませんが、そうでなくとも、目の前のことに本気で取り組むことは、皆さん一人ひとりにとって必ず多大な糧となります。私が本稿でその例に挙げたのはスペイン語の学習でしたが、大学では部活やサークル、またアルバイトでも同様の経験をしました。

冒頭でも述べたように、今の皆さんの多くにとっての「目の前のこと」は受験勉強だと思います。思うような判定や点数を模試で採れなかったり、周りと比べて焦ったりすることもあると思いますが、改善策を模索しながら日々の学習を続けることは、高校卒業後にも必要になってくる力に直結すると思います。幸いにも皆さんの周りには、切磋琢磨し合える仲間や、それを支えてくれる先生や家族がいます。時には周りに助けを求め、その人たちへの感謝の気持ちを忘れず、日々の学習に励んでほしいと思います。

上写真：フットサル部（東京都ベスト4を決めた瞬間）
下写真：ブラジル音楽サークル

最後になりましたが、まだ活躍の“か”の字も体現できてない私に、「活躍する関高生」の執筆の話をくださった高校の同級生と担当の先生に感謝申し上げます。本稿で抽象的な表現や分かりづらい用語を使ってしまい、大変稚拙な文章を書いておきながら大変恐縮ですが、私自身にとっても高校時代から今までを振り返る良い機会になりました。誠にありがとうございました。

---

[i] 正式には DELE と呼ばれる。DELE（スペイン語認定証）とは. DELE はスペイン教育文化スポーツ省の下、スペイン国外ではセルバンテス文化センターが実施する、高い信頼性をもったスペイン語の検定試験のこと。

[ii] 政府の積極的な民間介入に反対するとともに、古典的なレッセフェール（自由放任主義）をも排し、資本主義下の自由競争秩序を重んじる考え方のこと。